

リサイクルプラザ赤川

リサイクルプラザは、「みんなで、ごみをへらそう。みんなで、すすめよう、リサイクル」をモットーに、楽しみながらごみ減量やリサイクルについて学び、実践ができる場所で、市内旭区赤川と浪速区塩草の2カ所に施設があったが、残念ながら平成24年(2012)3月閉館となった。

紙パック等の受付

紙パック受け付けは、15枚単位でスタンプを押してもらい、スタンプ数に応じて記念品と交換。その他の受付品目は、乾電池・蛍光灯管・水銀体温計・マタニティウェア・ベビー服・子ども服・使用済インクカートリッジ。

リサイクル教室

紙すきやパッチワーク、ガラス細工、染色、夏休み子ども教室など、楽しいリサイクル教室が随時開催された。

衣類展示コーナー

受け付けた衣類を展示するコーナーで、欲しいものがあれば、大阪市民に限り無料で持ち帰ることができた。

家具と自転車のリサイクル

家庭で不用になった家具や自転車を修理または再生のうえ展示、大阪市民に抽選のうえ有料で譲渡。(毎月1回) 大型家具・大人用自転車は2,000円、幼児用自転車は700円。『自転車の申し込み倍率は平均50倍ほどだが、人気モデルは100倍を超えることも…!』あったそうだ。

ごみ減量

・リサイクル情報コーナー

ごみ減量やリサイクルに関する情報を集めたコーナーで、市民によるリサイクル作品も数多く展示された。

リサイクルプラザ赤川は、平成8年(1996)にオープンした敷地面積1,345平方メートル、3階建ての施設で、「紙パック等の受付」「衣類展示コーナー」「リサイクル教室」「家具と自転車のリサイクル」事業のほか、ごみについて分かりやすく説明した「ごみ減量・リサイクル情報コーナー」が設けられていた。



写真■外観



写真■リサイクル教室



写真■リサイクル風景（自転車修理、家具）

日吉神社

赤川鉄橋より少し東、赤川寺という大寺院があった。室町時代 文安年間に山王宮と称して近江の日吉神社の御分霊を祀った神社があったといわれており、それがこの神社であるといわれている。また、当時の赤川寺は四天王寺に匹敵する大伽藍だいがらんがあったという。

赤川寺は洪水や大坂夏の陣等の戦乱により廃寺となったが、この神社は類焼をのがれ、戦前迄は本殿、拜殿、絵馬堂があり氏神様として崇敬されてきたが、空襲で殆どが焼失した。

しかし、その後復興され、現在に至っている。

明治初年(1868)、山王社から日吉神社に改称され、明治32年(1899)には、淀川拡張のため北部を接収された。約200メートル南へ本殿が移され、現在の御鎮座地となった。御祭神は大山咋神おおやまのくみ、穀物の守護神である。(御系統：須佐之男命→大年神→大山咋神)

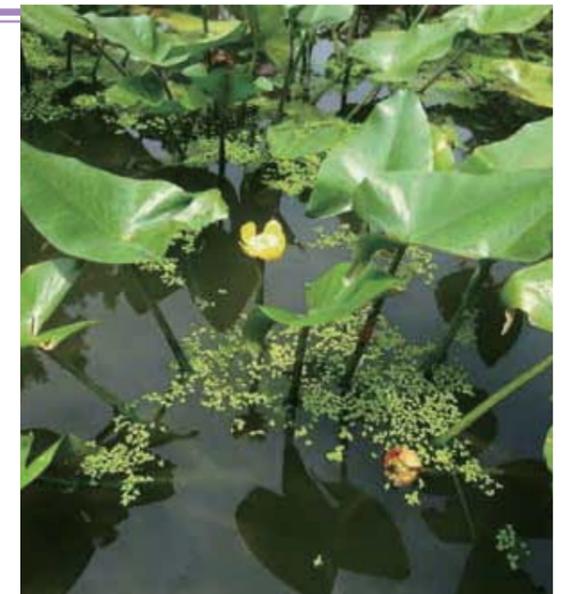


コラム 河骨

河骨こうほねは、地下茎が竹のように太く、根が多く出ていて、地下茎が強壯、止血剤の薬となり脚気にも効能があるスイレン科の多年草で、昔の中村(中宮地区)の特産物であった。

隔年、8月より9月に根茎を収穫し、泥を洗い落として30センチ位に切り、それを縦に2つに割って、干し、ひっくり返して、ポキポキに折れるまで乾かし、水分をとる。それを、大阪の薬種問屋に出荷していた。

大正8年(1919)度の収穫高凡そ千貫(3,750キログラム) 価額1,500円(当時)。



写真■河骨



写真■大阪市立環境学習センター(生き生き地球館)で栽培されている河骨

昔の農産物

【城北村】

米、油菜、大豆、空豆、胡瓜、茄子
泥砂の沖積、稍潤地、約200年前、河骨(こうほね)を栽培。
麦作は不適。赤川より移住して栽培。

【古市村】

米、麦、菜油、綿、越瓜、今市葱生(ねぎ)
明治38年(1905)頃より果実、梨、ブドウ等

【清水】

綿、米、麦、菜油(種)、大豆、えんどう豆、ブドウ、茄子